

## 第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画（中間案）への パブリックコメント及び関係団体等の意見に対する回答及び対応

### 1 パブリックコメント

No	章	節	頁	関連 施策	意見	回答	
1	3	2	39	4 11	人材の確保（事業者の確保）にあたり第三者継承といった内容も追加するとよいかと思いました。特に花卉や果樹などは新規で農業を始めるにあたりとてもハードルの高い分野のため、後継者のいない前事業者の設備や圃場を引き継ぐ形での人材の確保等を進めるといった点の追加と展望、施策があるとよいかと思えます。	御意見のありました通り、第三者継承による人材の確保は非常に重要であると考えております。施策4「みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成」（p39）に位置付けております「法人経営における円滑な経営継承の支援」のみならず、施策11「地域資源を活用した多様ななりわいの創出」（p58）における「第三者に引き継ぐ『継業』の促進」など、第三者への継承も視野に入れた施策を展開して参ります。	原案通り

### 2 関係団体の意見及び宮城県産業振興審議会農業部会委員の意見

No	章	節	頁	関連 施策	意見	対応	
1	1	2	12	10	「田園回帰の動きの広がり」について、新型コロナウイルス感染症の拡大による農村生活の魅力向上などの説明も盛り込んでどうか。（新しいライフスタイルの変化に対応する施策の推進）	施策10（p55）冒頭の文に下線部分を追記します。 また、 <u>生活様式の変化に対応し、関係人口等の多様な人材を農村に迎えて、住民と共に仕事や生活が可能となるよう、・・・</u>	追加・修正
2	2	1	20	2	「みやぎの食と農」の“個性”や“らしさ”についてより具体的な表現があったほうが分かりやすいと思われます。「食材王国みやぎ」、「みやぎの食」とはどのようなものかも含めて、目指すべき具体像を分かりやすく記載してはいかがでしょうか。	施策2（p34）冒頭の文に下線部分を追記します。 「また、地域のイメージとして「食材王国みやぎ」 <sup>(※)</sup> の更なる定着と・・・」 「※「食材王国みやぎ」の地域イメージ：「食」といえば「みやぎ」、 「みやぎ」といえば「多彩で豊富な『食』を創出する県」	追加・修正
3	2	1	22	11	地消地産や伝統的食文化による既存の食の圏域が形成されていることから、既存の食の圏域に対応した中・小の食のバリューチェーンがすでに存在する。宮城県を大消費地仙台を核とした巨大なバリューチェーンの形成だけでなく、各地方の地消地産をあわせて維持、発展させる視点が必要。	「食の将来像」（p22）、「農村の将来像」（p24）、施策11（p58）に含めています。いただいた意見は、今後、事業の参考にさせていただきます。	施策参考
4	3	1	29		I時代のニーズに対応した県産食品の安定供給 自給率の目標値も明記してはいかがでしょうか。	食料の安定供給に向け、米だけでなく、園芸品目や畜産物などバランス良く食材を供給するため、園芸産出額など、より施策の効果の把握に適した目標値を掲げるため、原案通りとします。	原案通り
5	3	2	30	1	学校給食向けに農産物を納めている者として思うことは、食育の施策1-1の対策・対応が薄く、まだまだ足りないように感じています。 やはり、10～20年後に宮城県産の多くの食材に触れる機会を創るには、今現在、子ども達の毎日の給食の中で宮城県産の食材を知る（知識）・見る・食べることだと考えます。献立の中に産地の紹介や取組などの情報欄を設ける、または県内産特集の特別メニューなどの企画など、栄養士や関係者の方のご苦勞をお掛けし大変だと思いますが、食育という共通の目的をもって取り組んでいただけたらと思います。 県側からは逐次、その情報を栄養士・学校給食の関係者へ提供していくことで季節に見合った旬のおいしい県内産農産物が子ども達に広く認知されることになると思います。	施策1の推進指標（p31）に「宮城県産の食材を使用した郷土料理を年10回以上提供している学校給食施設の割合」を追加するとともに、今後、事業の参考にさせていただきます。	追加・修正

No	章	節	頁	関連 施策	意見	回答	
6	3	2	34	2	<p>施策2：①消費者視点によるバリューチェーンの構築 実需者に生産者の想いや食材のストーリーを理解していただくことは重要と思います。この点の記載には賛同しますが、そのための手法（相互交流の活性化策等）についても記載してはいかがでしょうか。 例：（ビジネスマッチングや生産地or食品製造現場視察会等、相互交流の場を設ける等）を追記</p>	<p>今後、事業の参考にさせていただきます。</p>	<p>施策参考</p>
7	3	2	34	2	<p>施策2:②みやぎの食材・食品のブランド化推進による国内外への販路開拓 産学連携の視点を追記してはいかがでしょうか。科学的知識の活用は、安全性や効率化の追求だけでなく、国内外との競争力を向上させるために必要だと考えます。 例えば、次世代放射光施設を活用したみやぎの食材・食品の高付加価値化を追記してはいかがでしょうか。次世代放射光施設は高輝度軟X線で非破壊分析が可能であり、食・農分野への活用が期待されています。</p>	<p>本計画はキャッチフレーズとして、「共創力強化」をかかげていることから、産学連携の視点は必要ですので、今後、事業の参考にさせていただきます。 また、「大学や民間企業等との連携」（p71）の記載も踏まえ、産学連携を推進していきたいと考えております。</p>	<p>施策参考</p>
8	3	2	37 38	3	<p>家畜衛生の取組をもっとPRして良いのでは。 Ex) 防疫演習の写真を加える等</p>	<p>施策3③（p38）に下線部分を追記します。 <u>家畜伝染病の発生予防、まん延防止のための検査・調査を実施し、生産現場における家畜衛生の向上と自衛防疫の指導を行います。また、特定家畜伝染病の防疫</u></p>	<p>追加・修正</p>
9	3	2	40	4	<p>経営改善計画の協同申請を進め、女性の認定農業者を増やす取組が必要。経営改善計画の申請や更新の際に、家族経営協定の締結や更新を積極的に進める。</p>	<p>施策4（p40）下線部分を追記します。 女性農業者が能力を発揮しやすい環境を作るため、<u>家族経営協定の締結や研修会等によるキャリアアップを支援するとともに、</u>・・・</p>	<p>追加・修正</p>
10	3	2	42	5	<p>・アグリテックとスマート農業の言葉の使い分けを明確にすべきではないか。 ・多様な人材を標榜するのであれば、スマート農業を取り入れる経営体の育成と同時に、域内流通や職人気質を尊重する気風を大事にする視点も盛り込むべきではないか。 仮称 ガラケー農業</p>	<p>・アグリテックは「農業にICT等の技術（スマート農業技術を含む）を導入することで、省力・軽労化を図るなどの課題を解決すること」と定義し、p22及びp42に記載しました。 ・域内流通等の視点については、施策11①（p58）の中で盛り込んでおり、「個性豊かな小さくても強い農業経営を・・・」の文言を下線のとおり修正します。 <u>規模は小さくても、個性豊かで、顧客を確保し、持続性の高い農業経営を・・・</u></p>	<p>追加・修正</p>
11	3	2	44, 45	6	<p>・高収益作物の定義を明確にすべきではないか。 ・集約型のハウス栽培や、加工野菜などが注目されてきたが、コロナ禍において不足したのはジャガイモ、タマネギ、ニンジンだった。エッセンシャル？野菜は、地元で自給できる体制を再構築することも大切ではないか。 ・同時に伝統野菜、自家採種種子の保存活動にも行政支援するべきではないか。</p>	<p>・高収益作物については、施策6（p44, 45）で「野菜や果樹等の高収益作物」と記載します。 ・施策11（p58）で伝統的な農畜産物を活用した取組の支援や、地消地産の構築を促進する取組を行うとともに、今後、事業の参考にさせていただきます。</p>	<p>追加・修正 施策参考</p>
12	3	2	48	7	<p>施策7：④食品関連企業との連携強化 「食品関連企業との連携により、産地で一次加工まで行う取組を拡大し～」とありますが、この視点は県内食品関連企業の県産農産物の利用拡大を推進するにあたって大切な視点です。ぜひ積極的な支援をお願いいたします。</p>	<p>積極的に施策を展開して参ります。</p>	<p>施策参考</p>
13	3	2	50	8	<p>米の輸出拡大をきちんと記述した方が良い</p>	<p>新規需要米の注釈の中で、記載しました。</p>	<p>原案通り</p>
14	3	2	52	9	<p>・家畜衛生対策について記述し、体制（家保）整備も書き込んではどうか。 ・生産増となるので、どこへ売るか輸出も含めて記述すべき。</p>	<p>・家畜衛生対策については、No8のとおりです。 ・販売先については、施策2②（p34）で記載しております。特に仙台牛では、県内消費の拡大とともに県外での消費も進め、輸出については、これまで開拓してきた輸出先への輸出量を増やしていくことを想定しております。</p>	<p>追加・修正 施策参考</p>

No	章	節	頁	関連 施策	意見	回答	
15	3	2	58	11	「『地消地産』による地域経済循環」を中・小の食のバリューチェーンと捉えて、伝統的食文化の維持・継承をあわせて活性化していく視点が必要。	今後、事業の参考にさせていただきます。	施策参考
16	3	2	61	12	農業農村を持続可能なものとするために、環境問題は切っても切れない課題である。農業生産、農業所得の拡大のための規模拡大と効率主義一辺倒ではなく、環境と調和した規模と農法の共存が望まれるのではないか。	施策12（p61）において想定しており、環境に配慮した取組支援と理解促進を展開して参ります。	施策参考
17	3	2	62	12	ジビエ利活用の中に消費者理解とか消費推進とかの文言を加えることは可能でしょうか。	今後、放射性物質基準値内のジビエの増加に伴った利活用の加速化が予測されますので、その際にPRなど施策の中で検討して参ります。	施策参考
19	3	2	65	5 13	「③農業水利施設等のストックマネジメントの推進」について、水管理システムの推進や農業用施設等の情報システムの推進など、農業水利施設等におけるアグリテックの視点も盛り込んではいかがでしょうか。	ICT等の技術を活用した省力化も目的としている施策5（p42）において、農業水利施設等におけるアグリテックも想定しており、施策13（p65）は農業水利施設等の機能保全を目的としているため、原案通りとします。	原案通り
20	3	2	65	13	施策の概要説明のストックマネジメントは、③に入れて整理してはどうか。	紙面の構成上、原案通りとします。	原案通り
21	3	2	65	13	・農業集落排水の目的は生活環境の向上と農業用水の水質保全などを目的としていることから、施策12に入れて整理したほうが良い。 ・防火用水の部分は施策13の①に入れてはどうか。	安定した農業経営や安全安心な暮らしの実現も目的とした施策のため、原案通りとします。	原案通り
22	4	1	70		「〔食に関する主体の役割〕○食品関連事業者等」の「～輸送コスト削減等の観点から～」の箇所について 効率化を求めることはよいことですが、県産農産物を積極利用する理由はそれだけではないと考えます。現記述ですと、県産農産物利用はコスト削減が最優先で、それ以外の目的が見えてきません。「地域の独自性（みやぎの食らしさ）、安心・安全の確保、輸送コスト削減等の観点から～」のような言い回しになさってはいかがでしょうか。	「〔食に関する主体の役割〕○食品関連事業者等」（p70）に、下線部分を追記します。 <u>地域の独自性、安全・安心の確保、輸送コスト削減等の観点から～</u>	追加・修正
23	4	1	71		〔大学や民間企業等との連携〕について 「産学連携によって、県内中小企業のサービスや商品の高付加価値化を推進します」ということを追記してはいかがでしょうか。	今後、事業の参考にさせていただきます。	施策参考
24	全体	2		1,2	素晴らしい県民条例基本計画と思います。全体的に消費者の理解があって消費してもらえる生産物ですので、そうした消費に係わる文言ももう少しあると良いかと感じました。	「食の将来像」（p21）にて、下線部分を追記します。 生産から加工、流通、小売までを消費者の視点を重視したマーケットインの発想でつなぎ、各段階で県産農畜産物の価値を高めるバリューチェーンの構築を進めます。	追加・修正